



## 小さなクルマの 可能性を追求

ダイハツ工業株式会社  
代表取締役社長

三井 正則

現在当社を取り巻く環境は、軽自動車の低燃費技術や販売面での競争激化、海外では主要市場のインドネシアで急速な市場拡大に伴いグローバルメーカーとの熾烈な競争と、国内外において大変厳しい状況にあります。このような中、2013年6月に社長の任につき、日々難しさに身の引き締まる思いを感じつつも、どのように克服し社業を発展させるかとてもやり甲斐を感じております。

当社が2011年に軽自動車の本質追求を目的に開発した「ミラ イース」は“低燃費・低価格・省資源”な

第3のエコカーとして新しいカテゴリーを創出しました。

その後、各社が低燃費技術を磨き、競い合うことで、今や軽乗用車の燃費は、30km/ℓレベルが当たり前の性能になってきております。また各社が、お客様の様々なニーズを捉え、使い勝手や安全性、プレミアム感などそれぞれの商品個性を追求したことで、新たな価値が付加され、魅力的な軽自動車が次々と登場してきております。さらに国内乗用車メーカー全8社が軽自動車販売を始めたことで、お客様の軽自動車に対する認識が変化し、市場拡大につながってきたと考えております。



ムーヴ

その中で当社は継続した諸改革によるコスト低減活動と、「ミライース」開発で培った低燃費技術「e:Sテクノロジー」を進化させる一方、更なる付加価値向上を目指した商品開発を進めております。2012年末にマイナーチェンジした「ムーヴ」では、低燃費・低価格といった「軽自動車の本質」に追加し、クルマの基本性能向上と、軽自動車ですべて低価格な安心・安全装備の衝突回避支援システム「スマートアシスト」を搭載するなど、新たな価値を付加した「軽自動車の本流」を具現化致しました。

これからもお客様の嗜好の多様性に素早くお応えできる商品開発を、スピードを上げて取り組んでいき、走る楽しさと経済性の両立や、クルマを持つ楽しさなど潜在的なニーズに向け、さまざまな付加価値を追求したモデルを提案していきたいと考えております。

当社の主要海外市場であるインドネシア・マレーシアは経済成長と各国の自動車政策効果により、近年、世界の自動車市場を牽引する市場に成長してきました。

この成長著しい両国でも、日本の軽自動車ですべて培った低燃費・低価格化技術の開発手法を展開し、同時に開発・生産・調達などの分野で現地化を加速させております。インドネシアで2013年9月に発売した「アイラ」がその第一号モデルであり、インドネシア政府のLCGC（ロー・コスト・グリーン・カー）政策認定を受けた初めてのクルマです。マレーシアではTPP締結後の関税自由化を睨み、2014年度稼働予定の新工場において品質面・コスト面での競争力強化を図っており

ます。今後も低燃費・低価格技術を進化させたスモールカーづくりと現地化推進で、現地のお客様に愛される、そして現地に根ざした企業として両国の自動車産業の発展に貢献していきたいと考えております。

このような国内外の厳しい環境下を生き抜くための新たな取り組みとして、従来の縦割り組織を改め、優秀な若手を抜擢登用する少数精鋭チームでスピーディーにやり切る体制構築と人材育成を推進してまいります。これは私がダイハツ九州大分（中津）第2工場の企画・建設・立ち上げで学んだことを基本にしております。具体的には組織のコンパクト化がコミュニケーション密度を高め、一人ひとりの意識の向上を促し、品質向上などの成果を生み出すということの具現化です。

まず2014年3月に開設する「久留米開発センター」の垂直立ち上げを狙い、準備チームを立ち上げました。このような少数精鋭チームを商品開発、生産、調達、販売などあらゆる分野で構成できるように人材育成を行ってまいります。そして国内・海外の現地ニーズに合致した現地最適商品の開発をはじめ、あらゆる事業の基盤強化とスピードアップ化につなげていきます。

最後になりましたが、当社は小さなクルマが持つ可能性をさらに追求することで、存在感を発揮していきたいと考えており、様々な商品・技術開発や事業展開を通じて微力ではありますが、今後の自動車産業の発展に尽力して参りますのでご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



アイラ